

ボールあそびの集い

団体名●丸井ゼミナール／代表者名●山田めぐ（人間科学部こども学科・3年）

はじめに

昔に比べて今はオンラインゲームやスマホゲームなど、室内遊び等のデジタルゲームで遊ぶ子どもが増えてきています。そのため、身体を動かす機会が減り、怪我や体を動かす遊びの知識、個人の身体能力が完全に発揮されていないと考えます。そこで、週1回、遊びの場を設け、子どもたちに運動の機会を与えると同時にスポーツの良さやおもしろさ、スポーツを通してのさまざまな出会いに気づいてほしく活動を行いました。

この活動をきっかけに、子どもたちには生活の中にスポーツを取り入れ、スポーツをする習慣をつけて継続的に行えるように週1回、本学のハンドボールの協力を得て、活動の機会を設けて行いました。

活動内容

怪我防止、ならびにスポーツの体の動かし方の基本を学ぶための動きづくりをした後に、主に鬼ごっこボールを使った遊びをしました。日によってはその場で、子ども達に何をしたいか聞き、学年や人数を把握したうえで何ができるか考え、子どもたちに合わせた遊びを行いました。1人でも行う遊びを取り入れることで、新しい発見や遊びを見つける機会を作ったり、チーム別・全体で行う遊びでは周りの人のことを考えたり、協力する機会を作りました。楽しさだけでなく、人として成長できるようスポーツを通じて行ってきました(図1、2)。



図1 リレーをしている様子

成果、結果の考察

最初は指示が中々通らず、時間内で子どもたちが満足する程の遊びができませんでした。座って話を聞かせること、ONとOFFの切り替えを伝えることで、徐々にですがスムーズに活動を進めることができました。回数を重ねるごとに、子どもたちの発想力や運動能力が上がったり、周りを見て行動するなどの成長が実感できました。

コロナ禍ではありましたが、消毒検温・一定の距離を保つなど最善の対策をして行ってきました。しかし、全国の感染者増加が著しく最後まで行えなかったのが心残りでした。

今後の課題、展望

今回はコロナ禍の状況であり、ペアやグループで遊ぶことが少なかったため、今後はペア活動など取り入れ、さらにスポーツに興味・関心を向けたり新しい発見ができるようにしていきたいと考えています。また、子どもたちが生活の中でスポーツを習慣化していけるよう、継続的にスポーツを行える場を提供していきたいと考えています。一方で、自ら継続的に行えるような学校や家庭での環境づくりが課題になってくると考えます。



図2 ドッチボールをしている様子